

2015年1月

●新年のご挨拶（2015年1月1日）

新年明けましておめでとうございます。皆様にとりまして今年も輝かしい一年でありますことを祈念いたしております。

当協会の立上げ準備期間(2005年)に、ドイツの再生可能エネルギー関連施設の視察、現地関係部門との交流を行い、その重要性を認識し、再生可能エネルギーのNPOを立ち上げ、今年で10年になります。当時、日本では再生可能エネルギーは一般には知られておらず、欧州の再生可能エネルギーに関する最新情報・技術の紹介、普及、特にメタン発酵に力点を置き活動を開始しました。

不幸にして2011年3月11日の東日本大震災により、国民の多くの方々が再生可能エネルギーを知るところとなりましたが、課題はさらに大きくなり、諸重要事項が先送りされて来た感が有ります。今年に国連気候変動枠組条約(UNFCCC)の「第21回締約国会議(COP21)」がフランス・パリで開催されます。この会議では、2020年以降の世界の気候変動・温暖化対策の大枠が合意される予定です。日本も温暖化ガス排出量の意欲的な約束できる目標値を公約せねばならず、本当に問題を先送り出来ない年となりました。

当協会も福島霊山地区の復興支援を通じた再生可能エネルギーの導入と地域創生活動、日本だけでは地球温暖化ガス排出達成が難しい為インドネシアでの再生可能エネルギーの普及支援、将来の地球温暖化の影響をまともに受ける子供たちへのエネルギーの重要性の教育等、活動の範囲が広がってまいりました。「自ら道になりきらなければ、道を歩むことはできない。」……ゴータマ・ブッダ今後とも微力ながら、日本のそして世界のエネルギー問題を解決するために活動してまいりますので、引き続きご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

副代表理事 尾園 次郎

●講演 環境-エネルギーフォーラム 2015 in 船橋

「行政ガバナンスに問われるもの-地域自立性をどう引き出せるか-」(2015年1月17日)

1月17日(土)、REPAの篠田淳司理事・事務局長が、船橋市中央公民館で開催された「環境-エネルギーフォーラム 2015 in 船橋」(主催:(公社)腐食防食学会)に参加しました。主題は、「環境エネルギー問題に関するガバナンスと市民レベルの視点」というもので、まず、篠田氏は「行政ガバナンスに問われるもの-地域自立性をどう引き出せるか-」をテーマに講演し、その後、パネリストとして「再生エネにおけるバイオマス・廃棄物発電の位置づけと資源エネルギー安定供給・防災拠点としての機能性認識」の議論に加わりました。そして、今後、地域特有の分散エネルギーを地域に生かすためには、自治体職員の意識改革、御用学者ではないネットワークのきく全体像を把握している専門家・大学、そして環境エネルギー問題に関心の高い住民による構造へと切り替えることが必要と力説しました。なお、会場となった船橋市は、再生エネ等導入方針を取りまとめ、現在、再生エネ源としてのバイオマスメタン発酵設備の活用を検討し近く発表する予定です。



篠田理事・事務局長(右)

●インドネシアでの再生可能エネルギー支援活動開始（2015年1月13日）

インドネシアのダルマプルサダ大学が進めるロンボク島（バリの東隣）SERIWE 漁村で、再生可能エネルギーにより村を豊かにする活動を支援することになりました。ご支援ください。

活動が雑誌「財界」2015年1月27日号（1月13日発売）P81に紹介されました。表題は「戦後70年・改めて問われる日本の対外交流のあり方ー日本の経済外交の将来図を示すインドネシアとの「草の根」交流」です。